

おうちの方へ

保健室からの…つ・ぶ・や・き



先日、夢の中に初任の学校の大きな職員室がでてきました。はっきりとは覚えていませんが、大勢の先生方の前で何か話している夢でした。もうずいぶん前にいた学校が夢にでてくるなんて、何かこの夢には意味があるのでは…と地域の運動会でもらったお弁当をつつきながら考えていました。

学校はひとつの組織です。私はその組織の中の一員で、任されている仕事は全体のごく一部です。でも、自分の職務とは別に全体を見ている必要があるのです。そうでないと行き先を見失ってしまったり、問題の本質を見落とししたりしてしまうことがあります。弁当箱のすみのご飯粒をつつきみたいにかさいことばかりにとらわれていると、ものごとを大きくとらえられないのではないかと。どんな時も、ものごとの全体を見ていないと、人間性まで小さくなってしまいます。大きな視野を持って仕事にあたるべし。…そんなふうに夢を解釈することにしました。

近視眼的に近くばかりみていると、全体の様子がよくわからなくなるばかりでなく、本来の目的を見失うことがあります。部屋の模様替えをしていて、自分の気に入った小物ばかり並べてしまい、全体を見渡すとなんともバランスの悪い部屋になったことがあります。それは、私の仕事にも言えることなのです。寝不足でしんどいと訴えてくる子、けんかをしてけがをしたとやってくる子、ついつい症状だけみて、対症療法でおわらせているのですが、どうして寝不足になったのか、けんかをしてしまったのか、その原因や背景を見ないとその子の訴えを本当に受け止めたことにならないのですよね。…とはいっても、なかなかものごとを大きく全体的に見るのは難しいものです。

小さいアリには遠くが見えませんが、大きなゾウなら見えます。でも、アリもゾウにのればゾウの視野で世界が見られる。できるだけものごとを自分の視野で見るのではなく、少し違う角度から大きく全体を見るように心がけ、全体がどうなっているのかよく把握する。自分自身はまだまだゾウの視野はないけれど、将来を見通せる知識や経験の豊かな人を“ゾウの視野を持っている人”と考えれば、その人のアドバイスを受けることで大きな世界を見渡すことができると思うのです。

幸い志賀小にはゾウさんの視野をお持ちの先生がたくさんいらっしゃいます。ちょっとしたことには動揺せず、どっしり構えた頼もしい存在です。時にはゾウさんの力を借り、時にはアリの視野も大切にしながら、志賀小の子どもたちをいろんな角度で見守っていきたいと思います。



